

# 潮流



2014  
5月号  
No.237

大津島(平成26年 4月1日現在)  
人口 342人 (男147人 女195人)  
高齢化率 73.1%



## 島 春 桜

2014

### 大津島 さくらまつり開催



四月五日(土)大津島小中学校にて、大津島さくらまつりと、須金地区と大津島地区の老人クラブの交流会が開催されました。  
今年のさくらまつりは、歌川二三子さんのステージもあり、「来場者が楽しめるイベント」を地区コミュニティ、若潮の会などが協力し、企画・運営を行いました。  
前日の雨の影響で、「千年馬島ウォーキング大会」は、残念ながら中止となりましたが、それ以外のイベントは、無事開催することができました。  
来場して下さった皆様ありがとうございました。

大津島  
わかめ  
ラーメン



限定  
80食。  
即完売!!  
新名物  
誕生!?



今年は、若潮の会のメンバーが、大津島産の生わかめを使用した大津島わかめラーメンや焼き鳥、お酒の販売などを行いました。来場者をオ・モ・テ・ナ・シする新たな試みは好評でした。

## 午年に、馬島に馬がやって来た



徳山動物園からやってきたポニーの「パコちゃん」。  
島には昔、大型の馬を使って、山から木を運び出していたそうです。その時の馬と比較するとかかなり小さめですが、久しぶりの”馬“の登場に、子供だけではなく、大人達も興味深々でした。  
パコちゃんは、とても優しい眼をしていて、すごく癒されました。



文=屋野 廣志



◆昔の大泊の様子。  
人の大きさからすると、船が巨大なのがよくわかります。

※熊尾(くまお)=悪い方角

「今、出来る事は先に延ばすな」「先乗りをするな」「明日の天候は解らない」などと、父親はよく云っていたが、口ほどの事は無いと思っていた。

我が家は代々船乗りを稼業としていた。古きを尋ねれば、先祖の墓々に海の手を多く見る。故郷が村上水軍の根拠地周辺の島ならば、種(ふんどし)一つで櫓をあやつっていた水夫であったか。

明治元年生まれの祖母から、船乗りや海に関しての古き言い伝えなど子供の頃良く聞かされた。▼船乗りはいかなる時も帯を解いて寝るな。▼夜は雨か時化ると思へ。▼船乗りは一声では返事をするな。二声を聞いて返事をせよ。今思えば板子一枚。用心の上のさらに用心沈着な行動をと思うが、海を暮らしの場として居る者は、色々俗信や信仰に厚い「何々するな」「何々をすると何々になる」など現在は考えられぬ言い伝えも聞いた。

▼出船の時は、子供を泣かすな。

▼何日ほどの方角が熊尾に当たる船を出すな。▼正月初出航は、現在でも守っている様に、出船はお茶漬。汁かけ飯は禁物。▼梅干しの種は海に捨てるな。▼刃物は海に落とすな。▼夜錨を入れる時は、必ず「ご免」と声をかけて落とせ。▼鳥居の見える沖には、錨を入れるな。▼海の漂流物は素手ではとるな。手鉤で取れ。▼流れる伝馬船は、泳いで追うな。▼もやいの網を、後から繋ぐ者は先の者の下に繋げ。▼船内で飯を炊けば、出来立て一番は釜の蓋の裏に少し盛り、船魂様に供えよ。▼龍神、船魂、神仏を崇め、己自身も過ちを起さぬ様に努め、海上で難儀にいる船を見れば、己の危機もかえりみず難儀を共にせよ。▼もやい網は自船より出せ。など教えられた。

遠隔操縦。自動操船など、現在の操縦技術を知る事は出来ぬが、祖母の語った人力、風力、潮流にまかせた時代もなつかしいとつぶやく。

～事務局からのお知らせ～

大津島地区社会福祉協議会よりお礼  
平成26年度善意銀行へのご寄付をありがとうございます。

●預託者 石田 博文 様  
亡母 石田 佐代子 様の香典返しとして  
金 50,500 円 (市社協 10,100 円 大津島社協 40,400 円)

移動図書館<やまびこ号 Jr.>

5月14日(水) 6月17日(火)  
●馬島巡航待合所 11:30~12:00  
●刈尾巡航待合所 12:20~12:50



編集後記

4月1日より、周南市中山間地域のHPがリニューアルされました。新たにフェイスブックページも開設しました。

◆大津島最新情報ブログページ  
「しゅうなん里の縁側.com えんがわ日記 大津島」

<http://shunan-inaka.jugem.jp/>

◆フェイスブックページ  
「しゅうなん里の縁側.com」

<http://www.shunan310-inakagurasi.com/>  
皆さま是非ご確認下さい。よろしくお願ひします。

砲台山の清掃活動報告

大津島観光協会が、山口県民局や周南市中山間地域振興課の皆様と一緒に作業を行いました。砲台跡のある山頂の見晴しがよくなりましたので、是非、足をお運びください。



第1回目:平成25年11月17日  
参加者:観光協会5人、県25人、市8人  
第2回目:平成26年3月4日  
参加者:観光協会9人、県21人、市7人



大津島の最新情報 更新中!!  
<http://shunan-inaka.jugem.jp/>

## 知っちょるかね



### 「皐月の鯉」

文 = 松本 千恵子

今年もまた刈尾の浜に鯉のぼりが泳ぐ季節になったね。青空に鯉のぼりが泳ぐ様はいっ見ても、せい

がええもんちゃあね。そこで今日は島の男の子の遊びの話。トリモチの木を採って来てその皮を海の中で叩いて自分で作ったトリモチでメジロ取り。山で木を切って来て刀をつくるチャンバラ。なるべく真っ直ぐな木を取って来て、柄には肥後の守で自分なりの模様を彫り、刃の部分もねんごろねつうに削る。ええのを作って尊敬を集めるのも居ったから、自分もと真っ直ぐな良さそうな木を取って来て削ったら、翌日顔がパンパンに腫れてめっちゃめっちゃ痒い。そう、櫨(はぜ)の木

を知らずに取って来て削ったから、かぶれてひどい目に合うたりね。

そんな男の子の遊びで段々畑の一番上まで登り畑じゃろうが田じゃろうがお構いなしに関の声をあげながら下に向いて跳ぶは跳ぶは。高い段を跳ぶる事は男の子の誇りだね。いきやしを付けて跳ぶから浜に降り切るまで大して時間はかからなかったね。考えてみりゃあ、のんきな時代じゃったねえ。通り道になった田畑は踏み固められて耕すのは大変じゃったろうに、あんまり叱られもせんかった半世紀も前の子どもの話。

## ~若潮の会通信~



文 = 野間 久生

『若潮の会』代表世話人として、早くも一年が過ぎようとしています。まず会を紹介しますと、入会対象者は大津島出身(家族を含む)で島外に住んでいる人を対象としています。年齢構成も 48 歳 ~ 66 歳と幅広く、住所も周南地域を中心に県外も含め現在 28 名で活動しております。昨年度より島の行事など、(運動会、文化祭、ポテトマラソンのボランティア、さくらまつり、盆踊り、墓の草刈り)に参加させて頂き、少しずつではありますが活動状況を知って頂いているのではないのでしょうか？

会の活動方針として、島の伝統文化を伝授、伝承し島の魅力の再発見に繋げ 綱領の『遊び心、動く心、もやい心』で協力していくことを掲げています。今後も会員数を増やし、自分の知らない風景や行事、また昔からの言い伝え等を聞きながら、一同童心に帰り『遠足』と称し、各地域を散策し今後の活動に 生かしたいと思えます。また今年度新たにアイランドカップ(ソフトバレー)の復活、島伝統料理講習などに挑戦したいと思えますので、ご協力お願いします。

## 公民館講座 ~島料理を学ぶ講座~

大津公民館

「こみそづくり教室」

「あまんだモチ教室」



前年度は、2つの公民館講座を開催しました。島の伝統調味料である「こみそ」の作り方を本浦のハギエさん、静江さん、清子さんに教えていただきました。

「あまんだもち」は良子さんに、芋を粉にする方法、芋の粉をモチにする技術などを教えていただき、先人の技術と根気強さを学びました。

## 馬島公民館「ツワぶき料理」



4月15日。ツワぶき料理教室を開催しました。今回は、ツワとメバルの煮物、ツワの天ぷら、五目寿司を作りました。他にも持ち寄った春の食材が並び、春の大津島の食を満喫することができる素晴らしい昼食が完成しました。

## ~今年の予定~

今後も公民館講座では、島料理の研究はもちろん。皆さんの技術や知識を、互いに学んでいければと思います。

また今後は、簡単な「島料理のレシピ本」を作成したいと思っています。今後とも皆様宜しくお願致します。大津・馬島 公民館主事

# 大津島の人々 (5)



石田 照秋 (いしだ てるあき)さん

石田造船所。大津島出身。昭和11年生まれ。77歳。

Q 造船所の今と昔は？

A 十六歳からこの仕事を始めて、もう六十二年経った。当時は、刈尾で造船所をやっていたが、三十五年前から現在の大泊に造船所を移して仕事をしている。今では、大泊にほとんど家は無いが、昔は豆腐屋や駄菓子屋もあったそう。

若い頃は、船を造る仕事で中心だった。まずは大畠に木の買い付けに行き、自分の目で見て木を選ぶ。木を島に運び、半年間乾燥させ、それから木船造りが始まる。船の大きさにもよるが、長い時間がかかる仕事だった。

最近では、船の船底掃除や修理を中心に仕事をしている。体が動く限り現役を続けたい。

Q 今まで作った船で、一番多きいものは？

A 大きな石船を5、6隻作

つた。骨を組み、蒸気で蒸して板を曲げていき、熱いままの木を万力で締めつけて打ち込んでいって造った。

漁船はいくつ造ったか覚えてないね。でももう今では、島内に造って残っているのは、六隻だけになった。

Q 最後の木船は？

A 昭和五十一年に、大津小学校創立百周年の時に、伝馬船を造ったのが最後。

Q 大変なことは？

A 木船を造る時は、一本の木を、左右対称に裁断して、中心から右側の木を右舷側、左側の木を左舷側に使わなくてはならない。そうしなければ、船全体が歪んでしまう。この工程の時に、木が割れてしまったりすると、調整が必要になり大変だった。今では周南地区で木船を造れる者は、数少なくなってしまう。

Q もう一度「木船」造りを？

A やつてみたい。物を作るのは楽しい。一人じゃ難しいが、幸敏と二人なら、良い(少々)ものができると思う。

出来上がって、海に浮かべた時が一番良い瞬間。疲れがいつぱんに出るような、吹き飛ばすような。ほっとする。



最後の木船「おおづ丸」

季節の  
俳画

ひよこ



春休みに可愛い五人の孫が全員初めて集いました。今は皆、幼いひよこですが、やがて大きく羽ばたいてくれる事でしょう。

鉄線(クレマチス)



麦秋の候。夏に向かって成長し伸びてゆく花「鉄線」を描いてみました。

## 海 の街道・十一 【大内義興】



大河ドラマより...細川俊之

文=末兼正純

海の街道を京へと攻め上った大内氏の船団の最大のもものは、三十代義興のそれであった。陰徳太平記は、「その船千里の列を為す」と記している。

一五〇七年一月二五日、義興は山口を発し、中国九州四国の軍勢を三田尻に糾合し、翌年四月二七日、堺港に上陸している。その兵力は一五万〜二〇万とされ、概算すると一万隻近い船団だったと思われる。

近江や蛙島を通過するには幾日も要したであろう。一五〇〇年年明け、日野富子によってその座を追われた十代室町将軍足利義尹(よしただ)は諸国を流浪の末、大内氏を頼って山口に辿り着いている。これを匿った義興は、八年の歳月をかけて尼子や毛利を含む西日本の諸大名と計らい、慎重にチャンス待ち、ついに義尹を奉じて挙兵したのであった。

細川氏を中心とする現政権と激戦の末、七月一日、義尹を将軍に復位させるのに成功し、義興は管領代という立場に留まりながら中央の実権を把握している。そして一〇年、義興の留守を狙って出雲の尼子経久が安芸・石見などの大内氏の領国を侵し始めた。

これに対するため、一五〇八年一〇月、義興は京を捨て、全軍を率いて山口に帰国する。

義興は、政弘が応仁の乱を引き上げて帰国した直後に生まれた第一子であり、この時まだ三二歳であった。その子三一代義隆が、一五五一年九月、長門の大寧寺において自刃し、西国の雄大内氏は滅亡した。